

# わが国におけるモーターサイクルスポーツの歴史と今後の課題に関する一考察

## A study on the history and future tasks of motorcycle sports in Japan

1K10C190-6 酒井 翔太

主査 友添 秀則 先生

副査 杉山 千鶴 先生

### 【序章】

#### <動機>

筆者は、モーターサイクルスポーツというものに興味はなかった。実際に二輪免許取得し、徐々にオートバイへ興味を持つようになった。そして大型二輪免許を取得し、どのようなバイクに乗ろうかと考えていく中で、自然とモーターサイクルスポーツというところに目が行くようになったのである。

そして、次はレースで乗るような速いバイクに乗りたい、と考えるようになり、そこから筆者は様々なレースの動画や雑誌、番組等を観るようになっていった。そしてその中で、もっとモーターサイクルスポーツのことにについて知りたい、と思うようになったことが、この研究を始めたきっかけである。

#### <目的>

本研究の目的は、わが国においてモーターサイクルスポーツを普及させていくための案を提言することである。そのために、まず、わが国におけるモーターサイクルスポーツの歴史的展開を明らかにし、次に現状と課題について明らかにしていく。そして、最後に課題の改善策や普及策について考察する。

#### <方法>

本研究は、文献講読による文献研究である。

主な史料として、オートバイレースに関する雑誌や一般社団法人日本自動車工業会のホームページに掲載されている統計データ等を用いる。

### 【第1章】

本章では、世界におけるオートバイの誕生からわが国への流入と発展までの過程を明らかにした後、わが国におけるモーターサイクルスポーツの誕生・発展の過程を、文献を参考に明らかにした。

自転車にエンジンを載せることで誕生したオートバイの発展には、レースという存在が大きく関わっており、相互に進歩・発展してきたことが明らかになった。

### 【第2章】

本章では、インターネット上の各団体・施設のホームページ等を参考に、まずはモーターサイクルスポーツを

統括する団体について明らかにし、その後、わが国のモーターサイクルスポーツの振興の状況を明らかにした。警察庁が発表している二輪運転免許取得者数の推移や、MFJのライセンス取得者数の推移なども参考として提示しながら、表や図などを用いて現在のモーターサイクルスポーツの状況を確認していった。そして、最終的に、わが国におけるモーターサイクルスポーツの普及の困難性について、「する・観る・支える」という3つの視点から指摘した。

### 【第3章】

本章では、1章と2章の内容を踏まえ、わが国におけるモーターサイクルスポーツの課題と解決策を考えるために、競技人口とファンの2つの視点に分けた。そしてそのそれぞれの課題について整理し、今後の発展に対する提言を行った。

具体的には、「する」人側から見た場合、まず二輪免許の取得者が高齢化しているという現状があった。そして、モーターサイクルスポーツの始め辛さという問題もあり、それは主に費用面・安全面・否定的なイメージから来るものであった。そこで解決策として、車両の貸し出し制や無料レースの開催、学校や教習所と協力して講習会などのイベントを開催するという提案を行った。

「観る」側からの問題としては、レースを観戦できる場所と機会の少なさがあることが明らかになった。そこで、公道レースを開催することによって問題の解決を図り、ファンの拡大にもつなげていくことを提案した。

「支える」側からの問題は、組織拡大の困難性と若手育成制度の未整備の2点が挙げられた。組織拡大については、公道レースの開催などを契機とし、若手の育成に関しては、ロードレースの登竜門的存在であるポケバイ競技の競技会公式化(MFJによる公認)を提案した。

### 【結章】

本章では、本研究のまとめとして、わが国におけるモーターサイクルスポーツの課題と、それぞれの解決策について改めて確認を行った。

そして最後に、本研究の限界を示した。ロードレース以外の競技に関してや、モーターサイクルスポーツと二輪免許取得という行為の関係性については、今後更なる研究が必要であるだろう。